



TEMPUS

テンプレス

2004年(平成16年)

15号



紀州街道と粉河街道の
分岐点(脇浜)



熊野街道
半田一里塚(半田)



吉祥園寺(王子)



水間寺(水間)



かいづかの街道

熊野街道

紀州街道

水間街道

文化財トピック

市内の古文書調査から

かいつかの街道 —歩いてみませんか?—

「街道」(かいどう)とは、むかしの人々が利用した主要な交通路のことです。貝塚市内にも大小さまざまな街道がとおり、形や名称はかわっていますが、現在も国道や府道として私たちが毎日利用しています。今回、紹介する熊野街道(くまのかいどう)、紀州街道(きしゅうかいどう)、水間街道(みずまかいどう)は、市内をとおりる街道の中でも特によく知られており、現在もその道筋をほぼたどることができ、道沿いにはたくさんの史跡が残っています。これらの街道を歩き、町の名所をまわってみませんか?毎日見慣れているつもりでも、意外と新たな発見があるかもしれません。

熊野街道(くまのかいどう)

熊野街道は、京都から和歌山県熊野地方にある熊野三山(本宮、新宮、那智の3社)への参詣道です。平安時代の900年頃から白河上皇をはじめとする皇族や貴族たちがさかんに熊野へ詣で、鎌倉時代以降は庶民にも広まり、「蟻の熊野詣」とよばれるほどでした。

市内をとおりるのは、京・西国から熊野にいたる紀路とよばれる道です。その起点は、古くは「渡辺の津」(現在の大阪市東区京橋二丁目付近)で、そこから南下して堺、泉州をとって熊野に向かいます。

〈貝塚市内のルート〉

岸和田市土生町

貝塚市(津田川をわたる)

半田

(堂ノ池、唐間池沿いをすすむ)

麻生川(あそがわ)王子神社跡

街道沿いにあった九十九(つくも)王子社の一つ「浅宇河王子」跡。一帯は680年に秦(はた)氏によって建立された秦廃寺(はたはいじ)の推定地。

(岸和田からの水間街道と合流)

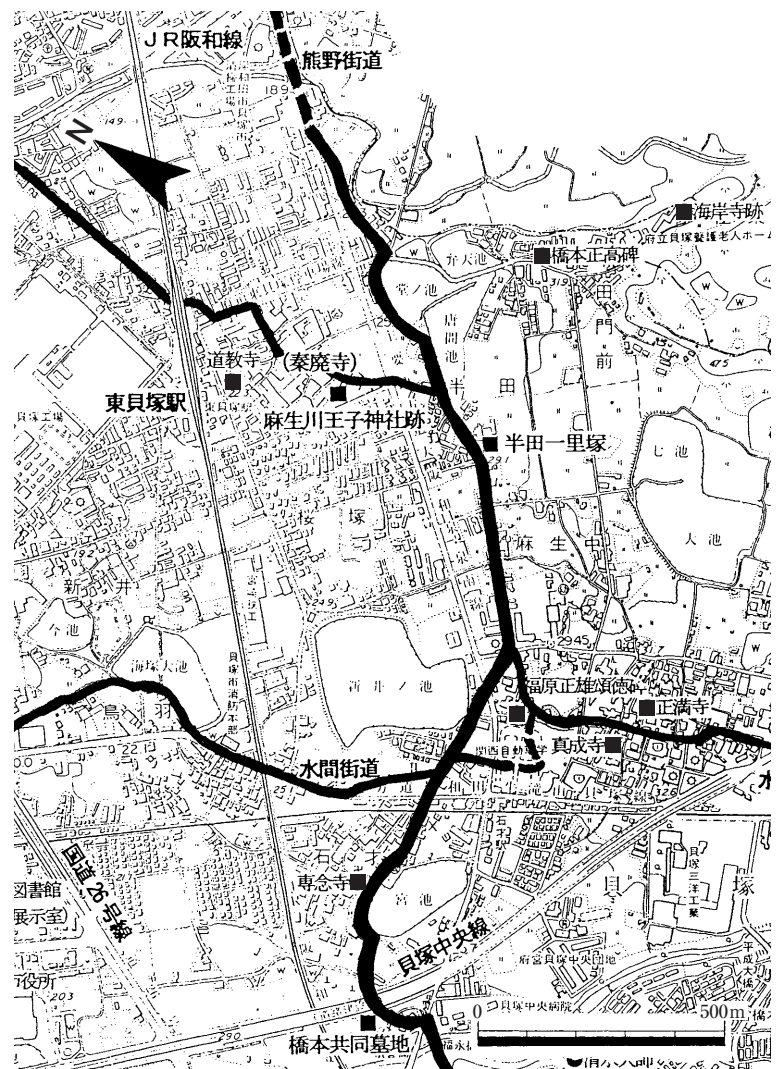
熊野街道「半田一里塚」

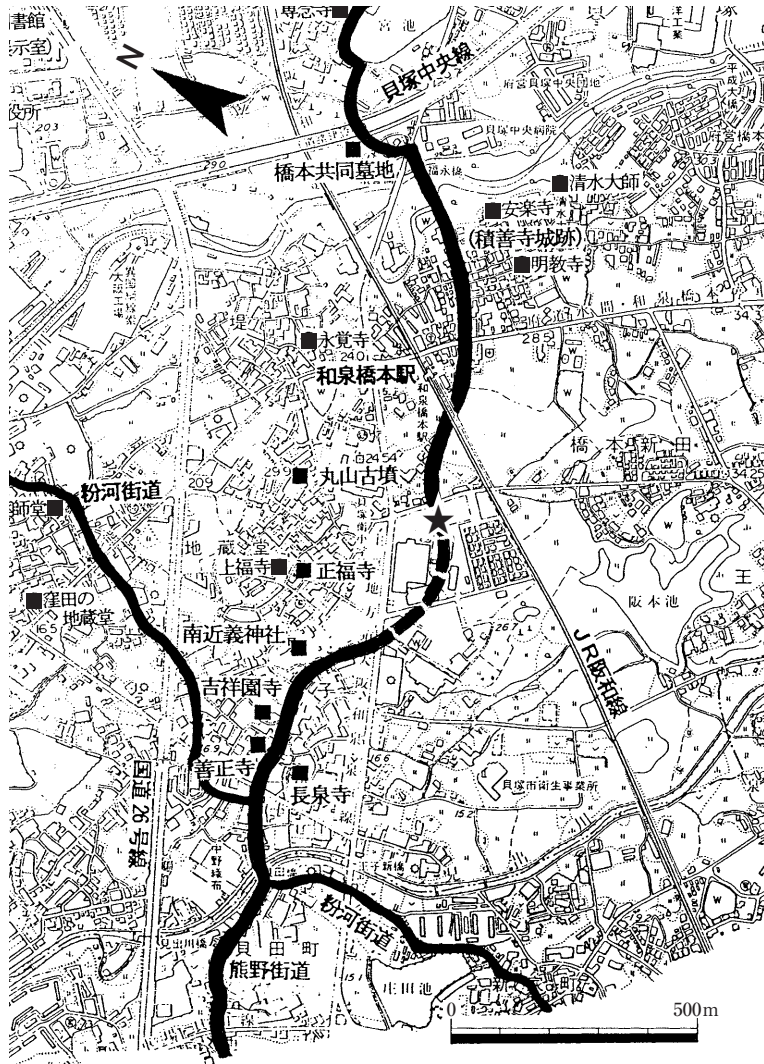
大阪府指定文化財(史跡)。街道の1里(約3.93km)ごとにその目印として配置された塚。

麻生中

(街道が一部とぎれる)

(貝塚からの水間街道と合流)





熊野街道 (石才～王子)

石才

(宮池沿いをすすむ)

橋本

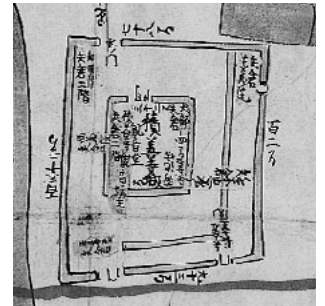
橋本共同墓地

奈良時代の僧行基(ぎょうき)が開いたという伝説が残る墓地。

積善寺(しゃくぜんじ)城跡(下写真)

1558年に和歌山の根来寺(ねごろじ)が築いた中世城郭。安楽寺境内が旧跡ともいわれます。

(JRの線路でとぎれる)



地蔵堂

丸山古墳

国指定史跡。古墳時代前期(4世紀)末に築造された全長70mの前方後円墳。

(住宅やショッピングセンターで大きくとぎれる)

★この地点では、教育委員会が行った発掘調査で街道の一部が見つかっています。

正福寺(しょうふくじ)

真言宗御室派。1122年創建。近木庄(こぎのしょう)地域の中心寺院。本尊の勝軍(しょうぐん)地蔵騎馬像が有名。

王子

南近義(みなみこぎ)神社

1284年に高野山の鎮守である丹生(にゅう)神社の分霊を迎えた神社。鞍持王子と近木王子が合祀されています。

吉祥園寺(きっしょうえんじ)

真言宗御室派。白鳳時代(7世紀後半～8世紀前半)の創建といわれ、熊野参詣日記に休憩所として登場します。

王子地区にはこのほか、本願寺第8世蓮如(れんにょ)が滞在した浄土真宗大谷派の寺院善正寺(ぜんしょうじ)や戦国時代の僧燈誉(とうよ)が説法した場所に建立された浄土宗寺院長泉寺(ちょうせんじ)があります。

(粉河街道と合流)

(見出川をわたる)

泉佐野市貝田町

紀州街道 (きしゅうかいどう)

紀州街道は、江戸時代の18世紀半ば以降、和歌山藩主の参勤交代（さんきんこうたい）の経路として利用された大阪と和歌山をむすぶ主要な街道の一つです。中世以前の浜街道を前身とし、江戸時代の17世紀初めに整備されました。和歌山市内から熊野街道と同じルートをとって北上し、泉佐野市上瓦屋で熊野街道と分岐して泉州地域の海岸沿いをとおり、堺、大坂へいたります。

〈貝塚市内のルート〉(南下するルートを紹介)

岸和田市南町

貝塚市津田北町

(岸見橋をわたる)

津田南町

寺田紡績株式会社津田工場

紡績工場。大正時代に建築されたレンガ造りの建物が残っています。

捕鳥部万（ととりべのよろず）の道標

万は飛鳥時代の人で、道標は岸和田市八田町にある万と愛犬の墓までの道のりを示しています。

(北境川をわたる)

旧貝塚寺内町地域

(貝塚市北町～南町)

上方口 (右写真)

北境川と紀州街道が交差する地点で、大坂側の出入口。



(府道で大きく拡幅される)

宇野家住宅 (国登録有形文化財)

前に紀州街道のなごり（コンクリート舗装の道路）が残ります。

願泉寺 (がんせんじ)

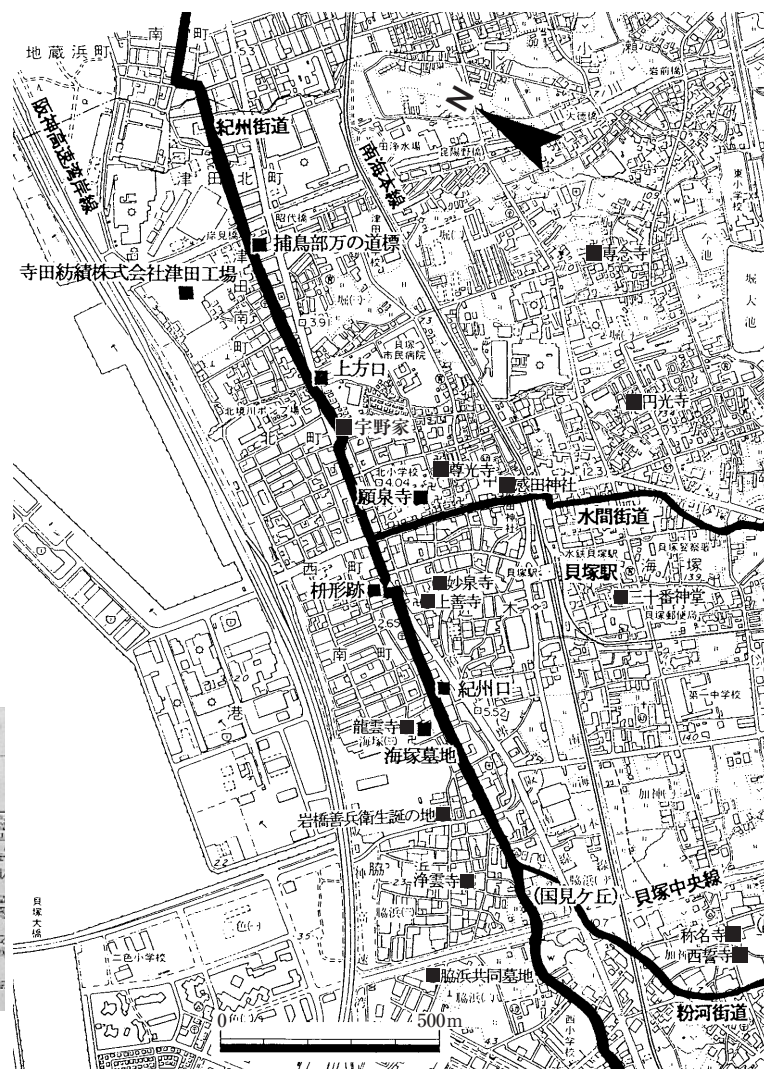
浄土真宗本願寺派。貝塚寺内の中心寺院。境内の建造物のうち、本堂、太鼓堂、表門が重要文化財に指定され、書院、経蔵が市指定文化財。

※旧貝塚寺内地域には尊光寺（そんこうじ）（浄土真宗本願寺派）をはじめとする多くの寺院や貝塚市内の産土神（うぶすながみ）である感田（かんだ）神社、国登録有形文化財の町家などが残ります。

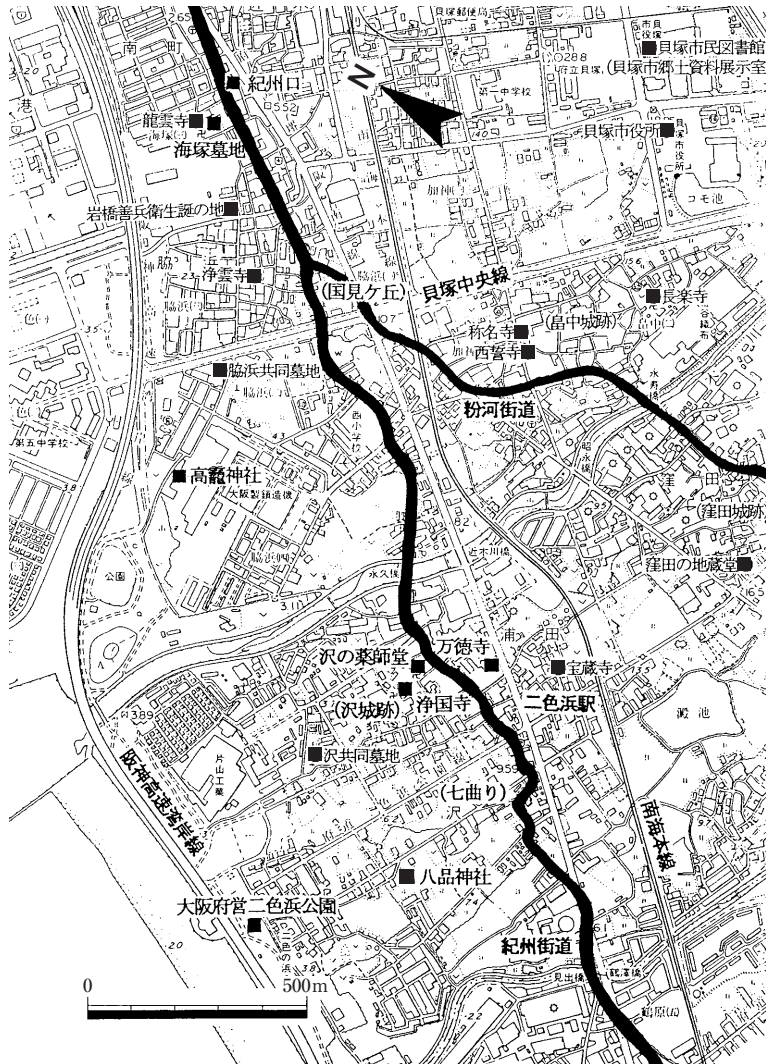
(西町の交差点で水間街道が分岐)

枅形（ますがた）跡 (右写真)

道路がかぎ形にまがる部分で、道路の遠望をさえぎる軍事的な意味がありました。



紀州街道 (津田北町～脇浜)



海塚 (うみづか) 三丁目

紀州口 清水川と街道が交差する地点で、和歌山側の出入口。

海塚墓地

旧南貝塚村の墓地で、貝塚寺内住民も利用していました。墓地内には、江戸時代の望遠鏡製作者岩橋善兵衛（いわはしぜんべい）の墓があります。

善兵衛の生誕地は貝塚市脇浜に、彼を顕彰した施設「善兵衛ランド」は三ツ松に建設されています。

脇浜 (粉河街道が分岐)

「国見ヶ丘」

粉河街道の分岐点をすぎたあたりがこう呼ばれます。古くはここから大阪湾岸の国々が遠望できたといわれます。

高麗 (たかおがみ) 神社

祭神は高麗大神と事代主命（ことしろぬしのみこと）。「脇浜のえべっさん」として親しまれています。
(近木川をわたる)

沢

紀州街道 (脇浜～沢)

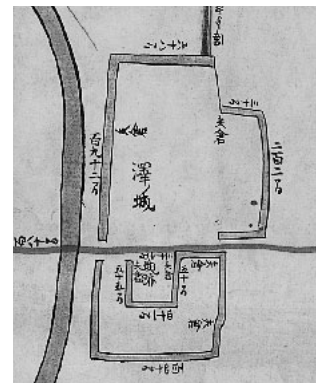
沢城跡 (右写真)

沢の集落一帯がその推定地とされる中世城郭。「浜之城」とも呼ばれ、1585年の豊臣秀吉の紀州攻め時には「雑賀衆ノ持タル城」として雑賀衆約6,000人が籠城しました。

「紀州街道の七曲り」 沢の集落をぬけたあたりで、街道がいくつもの小さなカーブを描くことから、こう呼ばれます。

沢地区には、浄土宗知恩院末の寺院浄国寺（じょうこくじ）と万徳寺（まんとくじ）や、「櫛の神さま」として親しまれる八品（やしな）神社があります。

(見出川をわたる)



泉佐野市鶴原へ

水間街道 (みずまかいどう)

水間街道は、貝塚市水間にある厄除けの仏「水間の観音さん」として知られる水間寺への参詣道で、山間部の集落と岸和田城下や貝塚寺内（じない）をむすぶ生活道としても利用されていました。泉州側のルートは、紀州街道から分岐するもので、岸和田城下と貝塚寺内を起点とする2つのルートがありました。この2つのルートは、現在の貝塚市麻生中で熊野街道をとって合流し、木島谷の集落をぬけて水間寺へいたりします。また、水間から近木（こぎ）川沿いをとる山間部への道は、和泉葛城山をこえ和歌山へいたる道で、和歌山方面からの生活道・参詣道として利用されていました。

〈貝塚市内のルート〉(熊野街道から水間寺まで)

麻生中

(貝塚中央線をこえる)

清見

稚児(ちご)塚(右写真)

清見地区の水田の片隅に建つ高さ40cm余りの自然石。行基(ぎょうき)を水間まで導いた十六童子を祭祀するために築かれた塚です。

高井天神廃寺・高井城跡

中世の寺院かつ城郭の跡地です。1585年の豊臣秀吉の紀州攻め時には千石堀城の出城として農民ら約200人が籠城しましたが、秀吉軍に攻められ落城しました。

清見の集落内をとおりる街道沿いには、比較的ふりやまの町並みがのこっています。集落内には真宗大谷派の珀琳寺(はくりんじ)と浄土真宗本願寺派の明円寺(みょうえんじ)があります。



名越(なごせ)

集落内には、浄土宗知恩院末の寺院安養寺(あんようじ)と浄土真宗本願寺派の寺院常照寺(じょうしょうじ)があります。

森

集落内には、木島谷(きのしまだに)地域の総社稲荷神社と浄土真宗本願寺派の寺院称名寺(しょうみょうじ)があります。

行姿邸のむく 大阪府指定文化財(天然記念物)。ニレ科の落葉広葉樹。

三ツ松

集落内には、臨済宗妙心寺末寺院の興禅寺(こうぜんじ)と浄土真宗本願寺派の寺院妙順寺(みょうじゅんじ)があり、「はすね観音」の名で知られる観音堂もあります。

水間

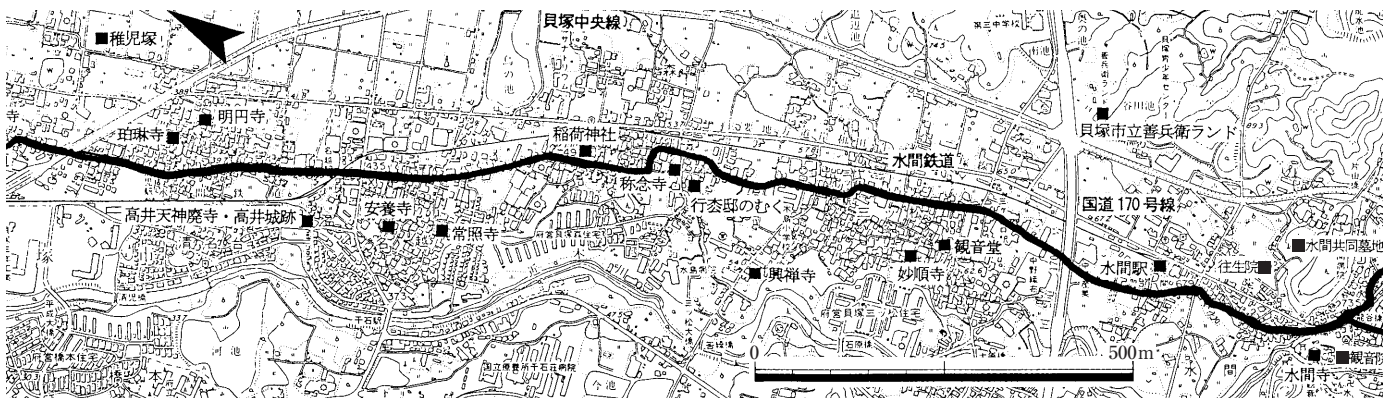
水間鉄道水間駅舎

国登録有形文化財。1926年に建設されたもので、卒塔婆(そとば)風の外観に洋風のデザインが取り入れられた鉄筋コンクリート造りの建物で、基本構造は建設当時のままです。

水間寺

天台宗寺院。「厄除けの観音さん」。大阪府下最大級の本堂、府下唯一の三重塔があり、境内および本堂裏の山腹に護摩堂、行基堂、薬師堂などの小堂が建っています。

木積をぬけ、和歌山県へ



水間街道(麻生中~水間)

文化財トピック 最近の文化財ニュースをお届けします！！

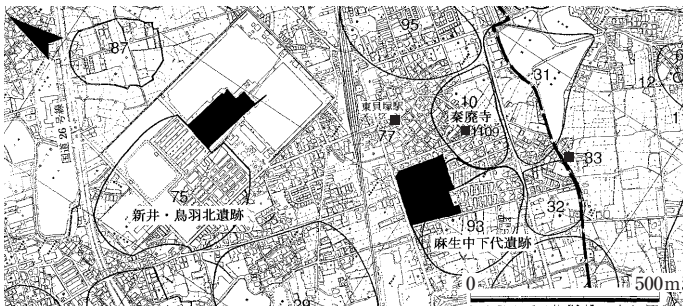
麻生中下代（あそなかしもだい）遺跡の発掘調査

麻生中下代遺跡では、府営半田住宅の建替え工事に伴う調査が平成8・11年度に大阪府教育委員会により実施されています。これまでに弥生時代中期の竪穴住居跡（たてあなじゅうきょあと）、古代の竪穴住居跡および掘立柱建物跡（ほったてばしらたてもの）が発見されています。

今回、民間の宅地造成工事に伴ない平成15年6月から調査を実施しました。調査では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡を発見しました。飛鳥時代と考えられる竪穴住居跡は、平面の形が方形の一辺4.8m、深さ0.3mで、4本の支柱であり、カマドと考えられる土坑も検出しています。

掘立柱建物跡の柱穴は、平面形状が円形のもの（直径約0.5m）、方形のもの（一辺0.6m）に

分類できます。多数の柱穴が見つまっていることから、数回にわたって建物が建て替えられたと考えられます。時期は飛鳥時代から奈良時代のものです。麻生中下代遺跡の北東側には渡来系氏族である秦勝賀佐枝（はたのすぐりかさえ）によって建てられた秦寺がありました。この秦寺を中心として集落が営まれていました。秦寺創建前（7世紀前半～中葉）の竪穴住居跡は、寺の建築に携わった工人たちが暮らしていたのでしょうか。創建後（7世紀後半～8世紀前半）に建てられた掘立柱建物は数回の建て替えが行われているため、秦寺周辺は近隣から多くの人々が集まり、長い間暮らしていたことが解りました。



調査地位置図



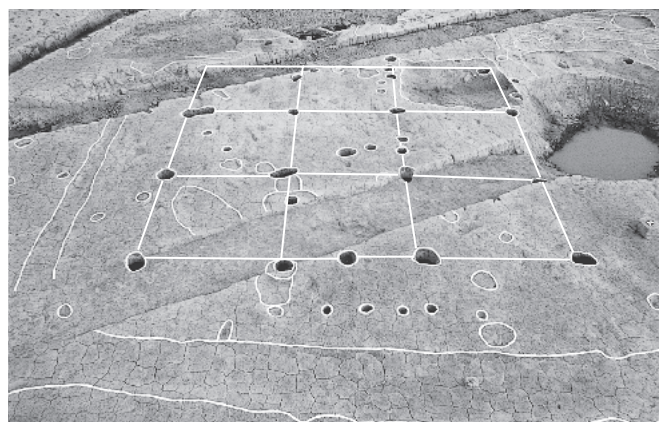
竪穴住居跡

新井・鳥羽北（にい・とばきた）遺跡の発掘調査

平成15年4月～10月まで、小瀬175-2他地内でユニチカ貝塚工場の跡地の開発に伴う発掘調査（調査面積約12,600㎡）を実施しました。新井・鳥羽北遺跡はこれまでの調査で、中世（鎌倉時代、室町時代）ごろから耕作地がつけられたことが明らかになっており、これらを耕した人々の集落が近くにあることが推定されていました。今回の調査では集落の一部と見られる掘立柱建物3棟を検出し、集落の存在が明らかとなりました。

遺構は耕作に伴う溝、鋤溝、池、井戸、集落域では掘立柱建物、区画溝を検出しています。遺物は、中世の土師器、瓦器椀、輸入磁器（青

磁、白磁）、近世の陶磁器が出土しており、中世～近世にかけての遺跡の様子が明らかとなりました。



掘立柱建物跡

市内の古文書調査から

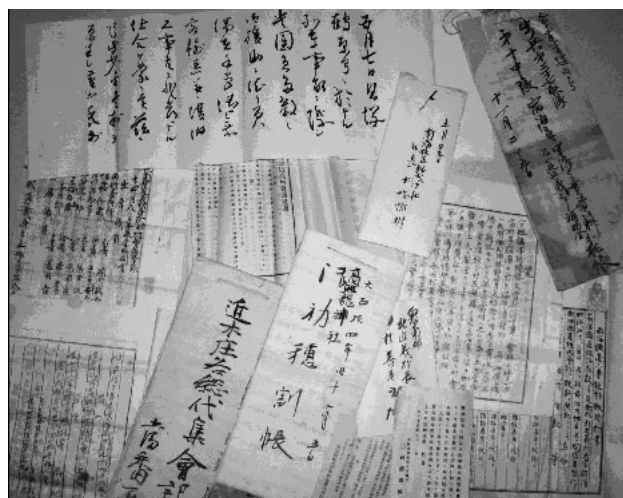
教育委員会では、市内の古文書調査を継続しておこなっています。ここでは、最近の調査の一部について紹介します。

田村家文書

石才には古くからの屋号を「善右衛門」と言い、近世には庄屋を代々つとめた田村家があります。大正期には、当主善寿郎氏が北近義村長をつとめ、貝塚町との合併に至るまでの約14年にわたって村政をにないました。

田村家文書は、このようないきさつから、19世紀初めの文化・文政期～戦前にかけての古文書が数多くのこされ、その点数は9,244点を数えます。

内容は、近世では石才村の村入用（村人たちが分担した水利や祭祀などの費用）や人びとの生活に直結したお願いや訴えといったものがのこされています。近代に入ってから、石才村の行政に関わるもの、さらには明治22年（1889）石才村・加治村・神前村・畠中村・脇浜村が合併し誕生した北近義村に関するものが多くのこされています。その中で注目すべきものとしては、明治29年（1896）南海鉄道（現在の南海電気鉄道の前身）の建設に関する書類や、大正元年（1912）高靈神社（たかおがみじんじゃ）と脇浜戎神社との合併についての記録、大正5年（1916）撰津紡績（のちの大日本紡績、現在のユニチカの前身）の脇浜工場が新設されたことを示す史料などがあげられます。これら貝塚の近代史を語る上で欠かすことのできない古文書が数多くのこされています。



編集後記

「かいづかの街道」いかがでしたか？現在では道路の名称を数字（国道や府道）で呼んだりしますが味気ないですね。今回は主要な三街道について紹介しましたが、今後、他の街道についても紹介していきます。

なお、歴史散歩のモデルコースをまとめた「歴史散歩マップ」（300円）などを発行していますのでご利用ください。

かいづか文化財だよりテンプス15号



平成16年1月30日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1
☎ (0724) 33-7126
印刷 (株)中島弘文堂印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します
年2回発行：各1,000部
印刷単価136.50円